

日本の学校体育

明治以前の教育

藩校

武士の
師弟

漢学、兵法、儒教

抽象的理解力

寺子屋

商・工
人、農
民

3rs(読み、書き、算盤)

具象的理解力



明治国家と教育

明治政府

統一国家日本

義務教育

富国強兵・・・兵士
殖産興業・・・労働者

体

體

身体教育

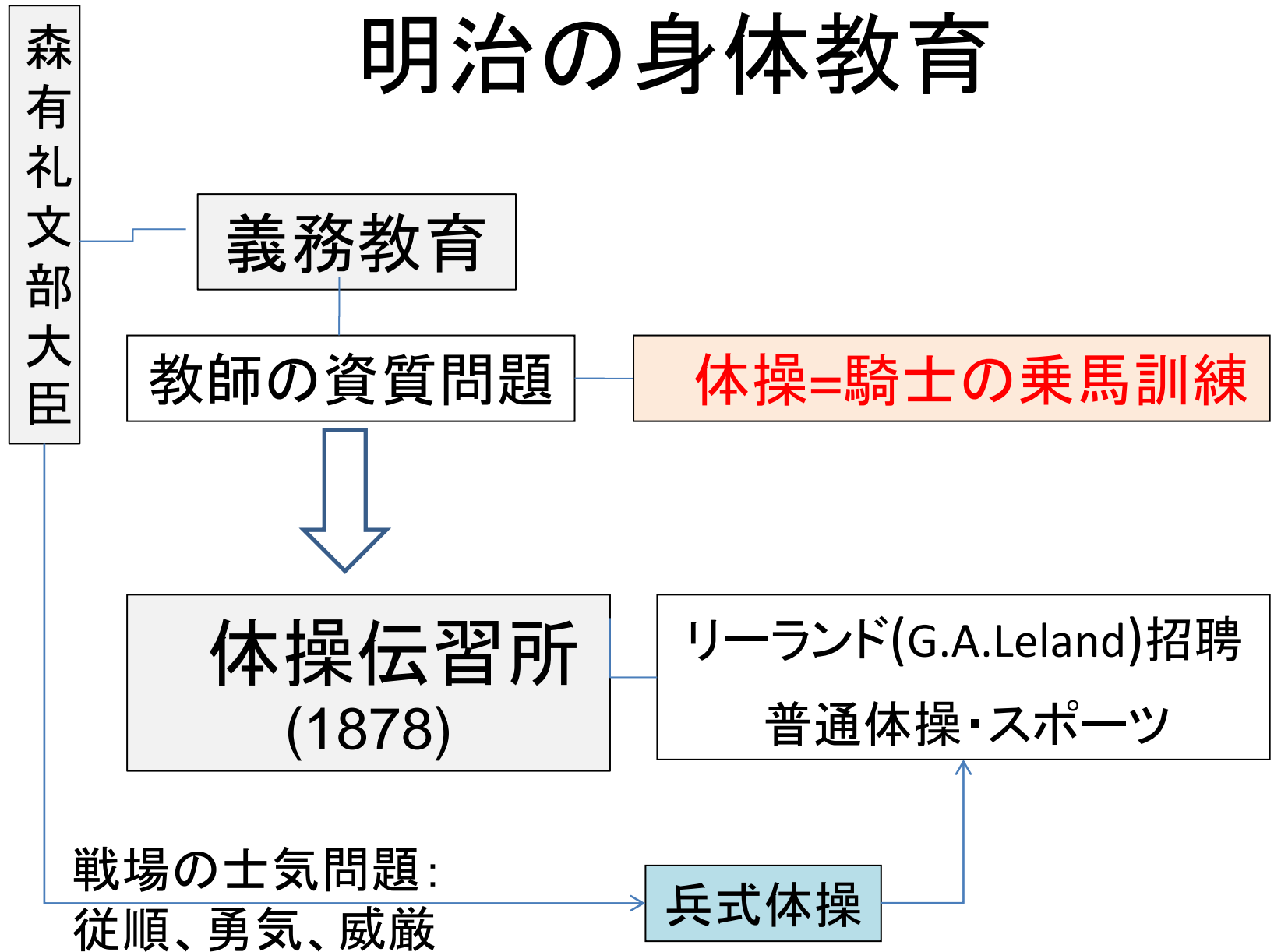
- 学制(明治5年1872)・・・近代学校教育制度 (義務教育)
- 目的:「臣民」形成
- 能力:知育・徳育・体育

身体教育:体術(教科名)・体操(教材)

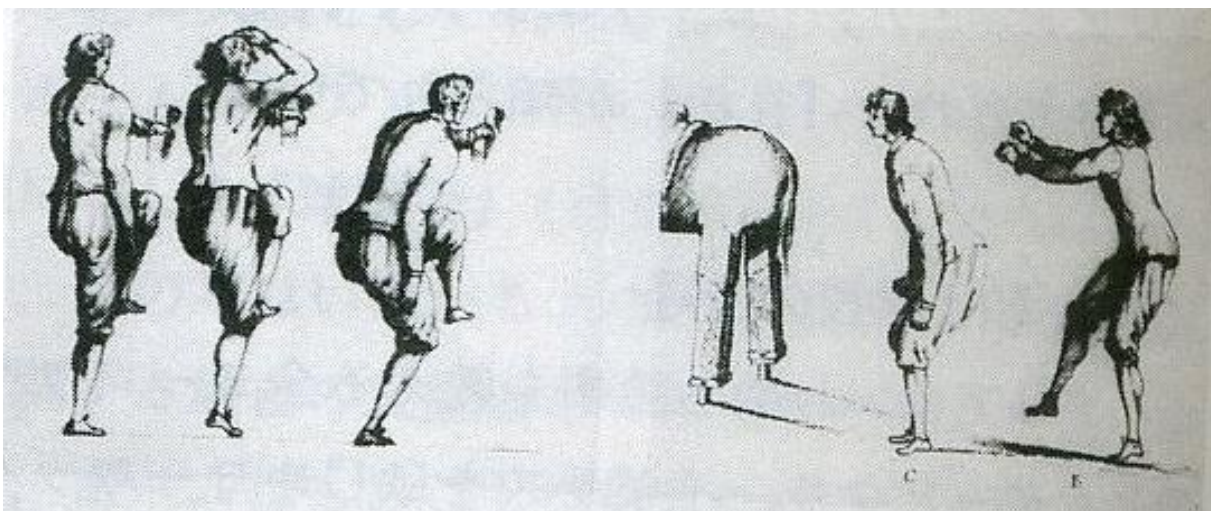
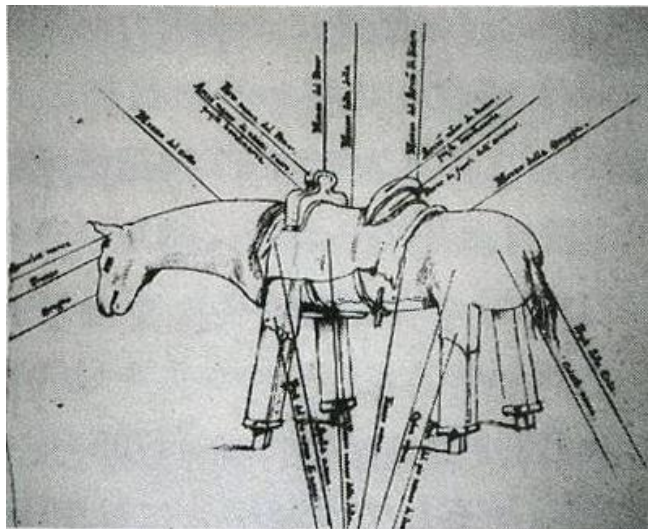
解剖学・生理学



明治の身体教育

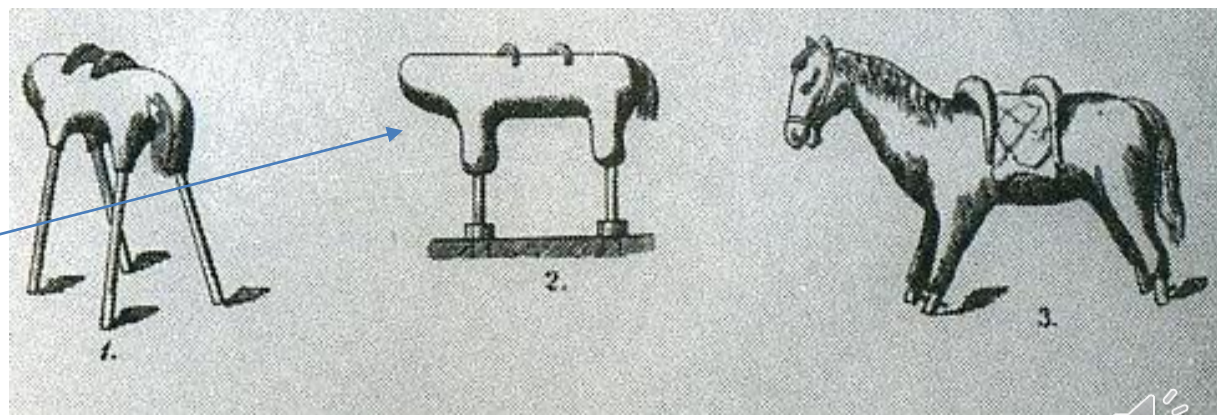


体操＝騎士の乗馬訓練



木馬の変化

鞍馬



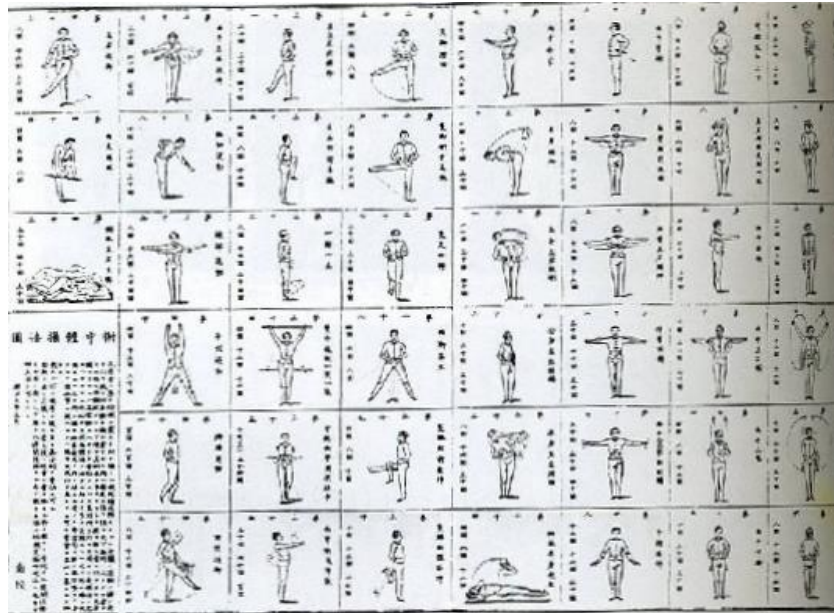
『図説スポーツ史』



G.A.リーランド



アメリカ人、アマースト大学卒業、医師
体操・スポーツ指導



樹中体操法図

坪井玄道



日本体育の父、体操伝習所の通訳・翻訳官。筑波大学体育専門学群創設者。

1878(明治11)年10月、体操伝習所が設立された。リーランドが指導した体操は、徒手体操のほか、亜鈴、球竿、豆囊、棍棒などを利用した手具体操が主体であった。リーランドはこれをノーマル・ジムナスティックまたは、ライト・ジムナスティックといい、坪井は普通体操または軽体操と訳した。リーランドは理論として解剖、生理、健全学などのほか、「体育論」を講義した。リーランドはアマースト大学卒業後、ハーバード大学医学部を終えた。医学者の立場から体育を振り返り、医学的な見地からまとめた体育論であった。

体操伝習所は、体育の専門的研究や指導の上で、所期の目的を達成することができた。すなわち、1886(明治19)年3月までに、多くの府県に正式の卒業生と、伝習員を送ったほか、全国でも多くの普通体操受講者が誕生したことになる。彼らの熱心な指導で普通体操は日本各地で全盛時を迎えるのである。

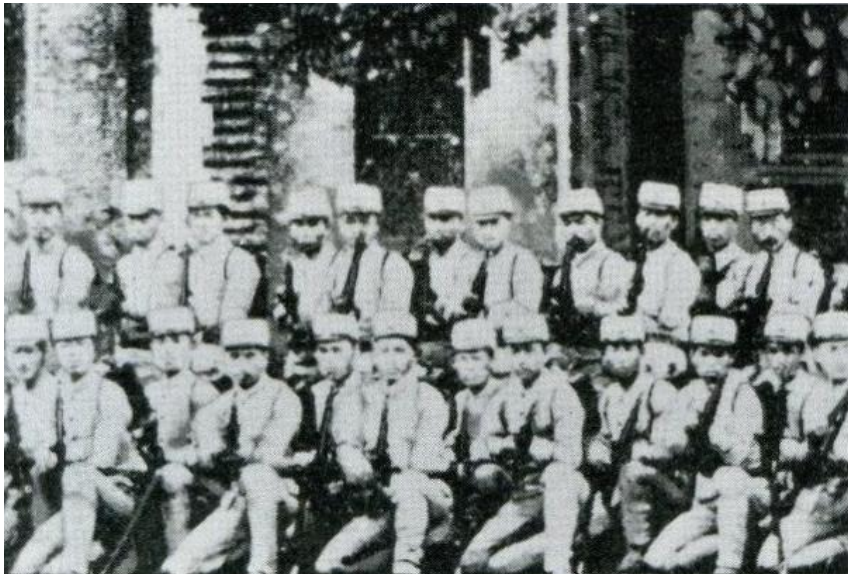
『スポーツと教育の歴史』

森有礼(文部大臣)兵式体操の導入(1886年)

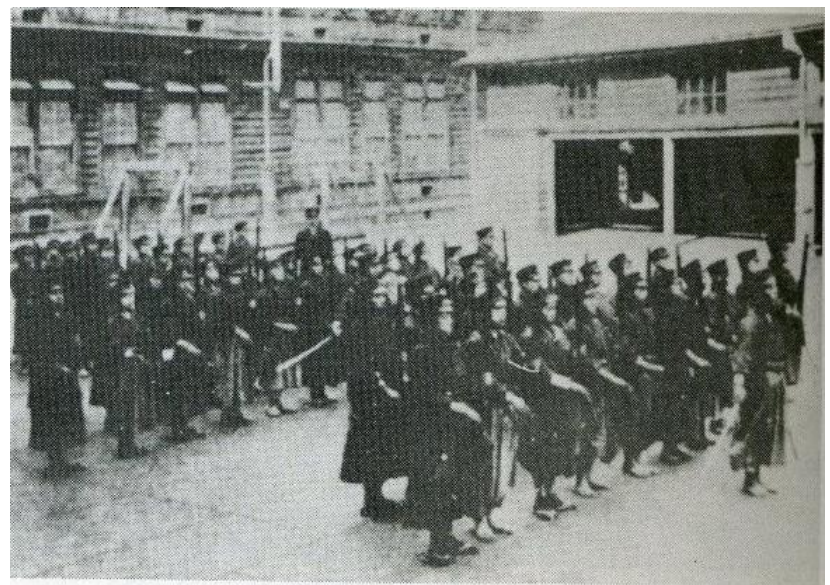


森は、「兵式体操に関する上草案」では「他日人となり、徴されて兵となるに於いてはその効果の著しきものあらん」として、兵式体操の軍事的効果を強調した。

森の兵式体操は、従順、友情、威儀を備えるための方法であったが、終局の狙いは富国強兵時代の軍人育成の準備であった。



兵式体操

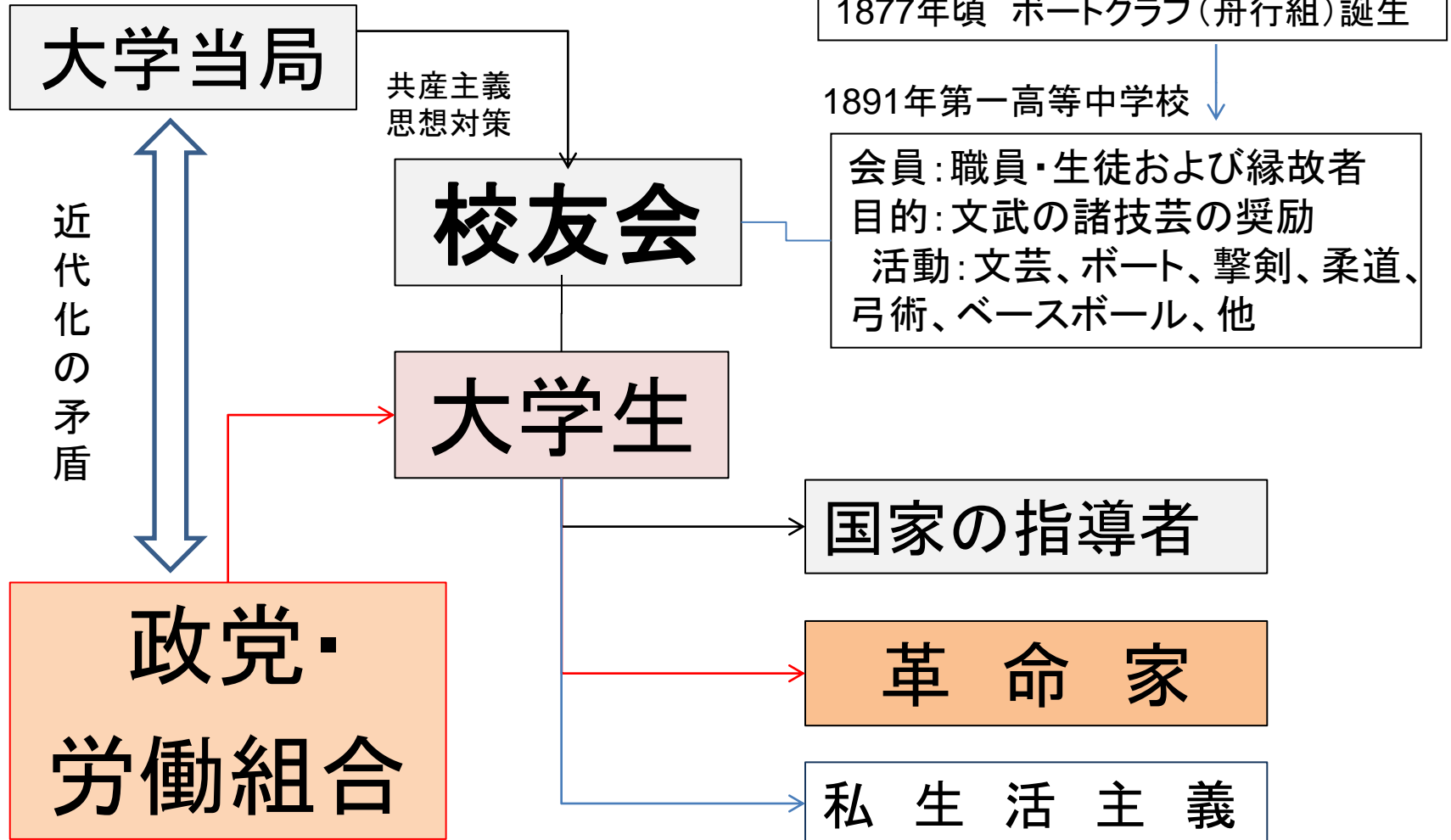


軍事教練



開成一高時代（旧士族子弟）1890-1903年

思想善導



一八九一年（明治24年）
覇権確立当時の一高チーム

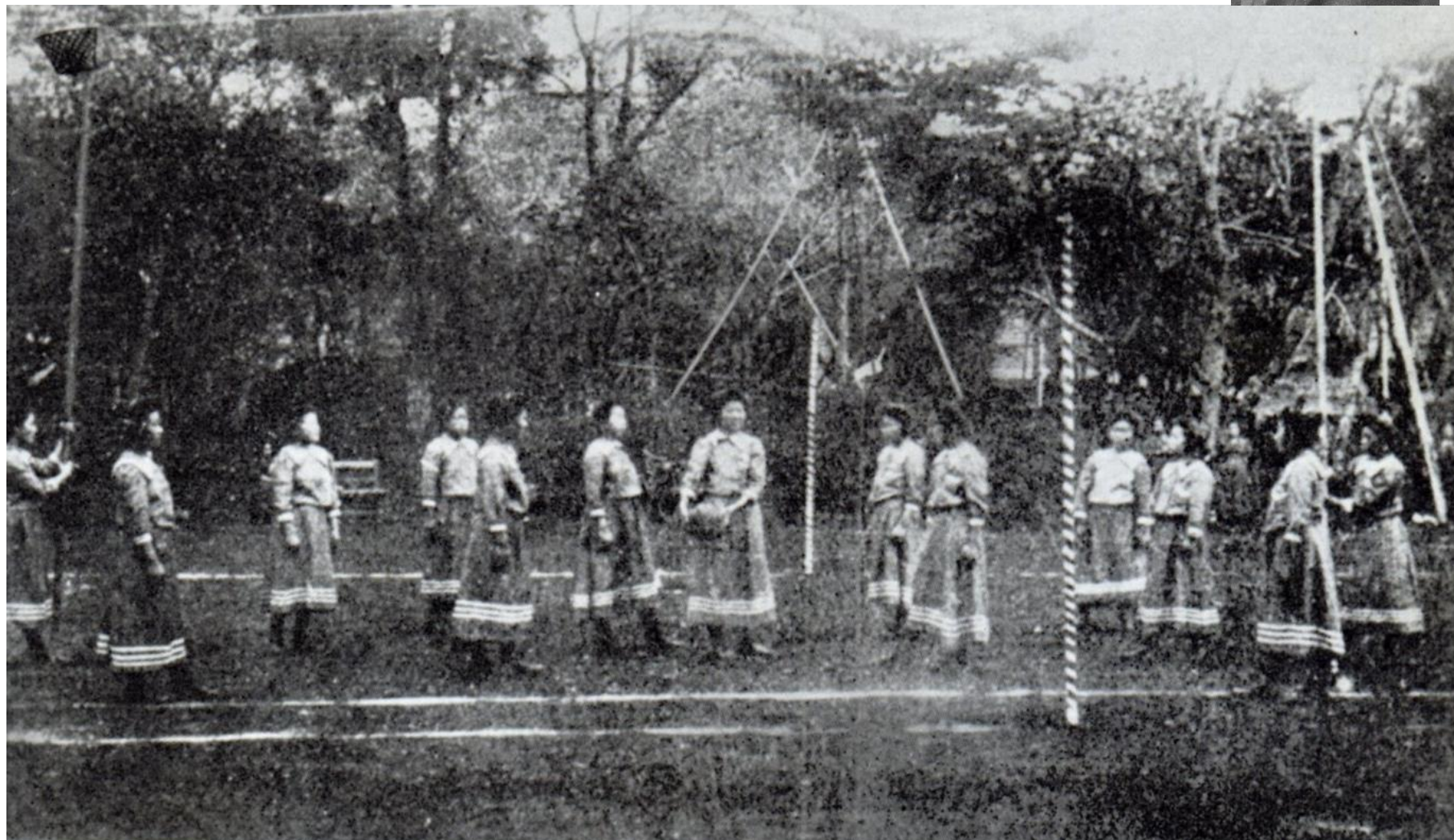


当時は第一高等中学校といったからユニホームは一中となっている（前列左から）福島金馬（投）伊木常誠（捕）（中列）小林政吉（中）中馬庚（二）高田源五郎（左）塩谷益次郎（右）伴宣（遊）（後列）福井杉雄（一）黒田銅吉（三）

中馬庚は1894年（明治27年）先輩として野球部史の序文に「ろんでにす部を庭球とし我部を野球とせば大いに義に敵せりと信じて表題は野球部史と題す」と書きはじめて野球の語を公称した。

女子大生のバスケットボール

女子大の創立者成瀬仁蔵氏が紹介したもの(明治43年)



大日本武徳会 (1895年)

伝統的身
体文化

ローカル組織・ルール(流派)

欧米スポーツの隆盛



大日本
武徳会

統一組織・ルール・大会

武術: 殺人、流派

剣術、柔術、長刀術

剣道、柔道、長刀道

武道: 活人、



大日本武徳会と創立の中心人物渡辺昇

嘉納治五郎

- ・柔術諸流派(起倒流、天神真揚流など)を吸収して柔道を完成する

- ・「精力善用」「自他共栄」を目標とする
- ・「修心の教」=精神教育として理解する

- ・柔道は日本の近代スポーツの誕生を意味する
- ・ルール、技術、施設・設備、服装などが規定される。
- ・臣民として中産階級の子弟を教育する。



嘉納治五郎

『スポーツの歴史と文化』

嘉納治五郎が学生時代にすたれていた柔術の修業をしたが、1882年下谷永昌寺嘉納塾を開き、青年の育成にあたりながら研究を進め、1887年頃新しい技術体系と理論を確立し、これを「柔道」と称した。嘉納は、受動が徳育・体育・勝負の法として教育上の価値を持つと主張し学習院教頭、第五、第一高等中学校、高等師範学校校長などを歴任しながら講道館を中心にその普及を行った。この柔道は、柔術から関節技などの危険な技を除き、安全に帰庫ができ、開放的な段級制度などを制定し、その稽古を通じて徳育・体育・競技としての価値を実現しようとしたもので、いわば身体を通しての教育という理念を先取りしたところがあったと評価できる。嘉納は、東京大学の学生時代欧米スポーツに接していた人であった。それ故に、日本の伝統スポーツの近代化に成功できたのではないかと思われる。

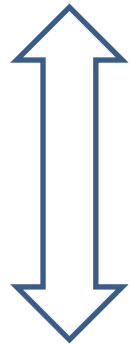
『体育・スポーツ史概論』

戦前日本のスポーツの特徴

大学のエリート

帝国大学、公立高等学校
私立大学、私立高等学校

富裕層の私的娯楽



スポーツ
アマチュアリズム
スポーツマンシップ

小学校卒の大衆

体操
プロスポーツの観衆



中等教育機関における運動部の設置状況(1932年2月現在)				
	男子中学校	女子中学校	実業学校	計
剣道	569	1	508	1078
柔道	476	0	311	787
弓道	119	132	98	349
相撲	155	0	166	321
陸上競技	550	5117	453	1520
水上競技	377	199	197	773
テニス	546	600	481	1627
バレーボール	175	563	81	819
バスケットボール	213	451	127	791
野球	450	2	260	712
卓球	47	424	114	585
サッカー	210	0	52	262
ラグビー	24	0	5	29
ボート	73	3	25	101
スキー	72	56	48	176
スケート	10	8	8	26
その他	210	403	220	833
小計	4,276	3,559	3,154	10,989

文部大臣官房体育課「中等学校ニ於ケル校友会運動部ニ関スル調査」1933年より作成。報告があった学校は、男子中等学校594校、女子中等学校949校、実業学校610校、計2,153校



東京で開催された各種競技大会の観客(1929-33)

男女比(%)	ラグビー	陸上競技	水上競技	野球	ボクシング	相撲
男性	92.2	93.1	87.1	91.7	94.4	94.1
女性	7.8	6.9	12.9	8.3	5.6	5.9
年齢構成比(%)						
～15歳	5.5	7.5	6.7	2.6	2.6	5.9
16～20	18.1	20.9	17.6	12	10.8	9.6
21～30	54.6	49.7	39.2	47.7	47.5	31.5
31～40	16.2	15.2	24.2	25.7	27.4	25.8
41～50	4.5	5.2	9.8	9.7	9.2	16.2
51～	1.2	1.7	2.5	2.4	2.5	11.3
職業構成比(%)						
学生	51.5	44.1	28.8	12.5	22.4	15.4
医師・弁護士	3.3	2.7	3.1	2.6	1.8	1.5
教員	3.1	5.4	5.9	1.3	1.8	1.5
公務員	3.6	6.5	6.8	6.3	7.2	9.4
銀行・会社員	15.1	18.6	26	16.5	17.2	13.1
商人	7.1	6.8	10.9	21.5	26	24.9
店員	1.5	4.3	2.8	3.9	3.8	14
職工・労働者	1.2	2.5	1.2	5.4	7.6	8.1
農業	0	0	0.4	0.3	0.2	3.8
軍人	0.6	2.3	1.2	0.4	0.5	3.3
その他	2.5	2.5	3.2	5.7	4.8	6.1
無職	10.9	4.4	9.7	11.2	6.8	8.8

水上競技、野球、ボクシングは『スポーツ観衆調査』『体育研究』第1巻第2号、1933年9月より、その他は東京市統計課「スポーツ統計」「体育と競技」1930年2月号及び1931年3月号より作成。サンプル数は、ラグビー4577で観客数の約8割、陸上競技が8639で観客数の約2割5分、相撲が7515で観客数の約7割、ほかの三つは不明。



全国民のスポーツ

スポーツの制度的保障

保健体育 (health and physical education)

GHQ, CIE

(目標)

(教材)

スポーツ



平和・民主主義



大学体育

柔道、剣道



軍国・超国家主義

氣勢

禁止

サンフランシスコ条約後解禁



学校体育の3領域

教科(授業)

身体的目標: スポーツの技術、戦術

＜全員＞

体育行事(スポーツ大会、運動会)

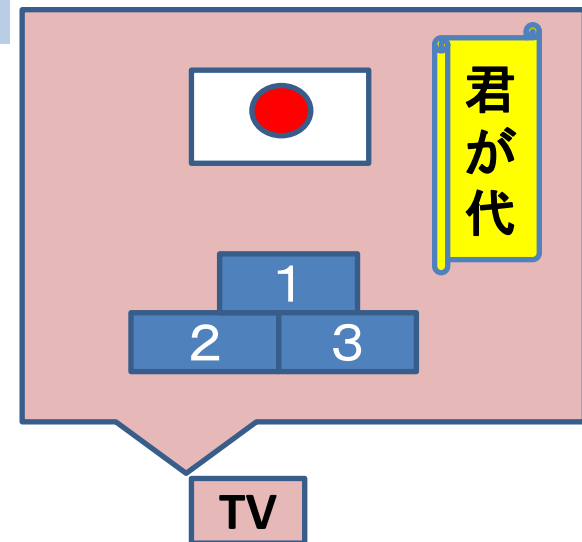
人格的・社会的目標: ゲーム運営能力

＜全員＞

特別活動(部活動)

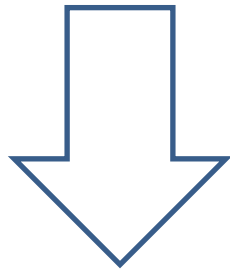
生活的目標: 生活化

＜少数精鋭＞・・・オリンピックの表彰台



学校体育の現状

学校経営の合理化
民主主義の一定程度の定着



種目選択化・・・中・高校
体育科の選択科目化・廃止・・・大学

